

第 56 回企画展

暮らしと稲わら加工



平成 25 年 4 月 7 日（日）～6 月 28 日（金）

岩手県立農業ふれあい公園
農業科学博物館

稲わらが広く利用され始めたのは、鉄製の柄鎌^{えがま いなかぶ}で稲株を地際から刈り取り始めた7～8世紀頃のことであると言われています。

11世紀初頭の平安時代中期、清少納言は「枕草子」のなかで早乙女^{さおとめ}が歌をうたいながら田植えする様子や、稲を根刈りして収穫する有様、脱穀^{だっこく}した籾^{もみ}を挽臼^{ひきうす}で籾摺り^{もみす}している様子を記述しており、これらがこの時代に定着し、一連の作業から米の収穫に伴う副産物のわらが生活に活用される素材となっていたことを伺^{うかが}い知ることができます。

この時代以降、江戸時代や明治時代を通じて自給自足の生活・生業^{なりわい}の農業形成の基本が構築^{こうちく}され、1965年(昭和40年)頃まで、手作りのわら加工品が活躍しました。

企画展では、わら加工に使われた道具と製品を紹介しながら、暮らしの技と豊かな生活の知恵と文化を考えます。



草鞋^{わらじ} あくとかけ わら沓^{くつ}



こだし 背負いこだし



背中当て わらけら

岩手県立農業ふれあい公園

農業科学博物館

北上市飯豊3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)

入館料／一般290円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)あります

【入館無料期間】科学技術週間のため、4/16(火)～4/21(日)は

入館料を無料といたします

駐車場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台